



# 地域発! CDEの活動報告

こんな取り組みをしています



## CDEならが目指すもの — 奈良糖尿病療養指導士認定委員会 —

執筆者



**岡田 定規** (おかだ さだのり)

奈良県立医科大学 臨床研修センター／糖尿病・内分泌内科学・医師  
奈良糖尿病療養指導士認定委員会 代表

奈良糖尿病療養指導士(CDEなら)認定委員会は、2016年創立の奈良県の地域糖尿病療養指導士(CDEL)認定団体です。2017年以降、年2回の認定講習会を開催し、奈良県で活躍する多職種医療スタッフとともにCDEならを育成しています。CDEならを通じてつながる多職種ネットワークを大切に、CDEL後発組だからこそ持てる柔軟性を活かして、職場や職種の垣根を越えて地域で活躍する糖尿病診療スタッフを育成しています。

### ●糖尿病療養指導士認定団体の概要

名称：奈良糖尿病療養指導士認定委員会

事務局：奈良県橿原市四条町840 奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学講座内

認定資格の名称：奈良糖尿病療養指導士(愛称：CDEなら) (図1)

創立年：2016年

認定委員会の構成：医師3人、歯科医師1人、看護師5人、薬剤師3人、管理栄養士2人、理学療法士2人、臨床検査技師3人

認定者数：207人(2025年2月現在)

認定職種：看護師、准看護師、薬剤師(病院・調剤薬局)、臨床検査技師、理学療法士、保健師、管理栄養士、栄養士、医師、歯科医師、歯科衛生士、介護職、その他(放射線技師、メディカルクラーク等)

## CDEならの立ち上げ

奈良糖尿病療養指導士認定委員会(以下、CDEなら認定委員会)は、奈良県で糖尿病診療に携わる医療従事者を対象としたCDELを認定するためにJADECなら(奈良県糖尿病協会)の下部組織として設立されまし

た。当時の奈良県には糖尿病専門医やCDEJ(日本糖尿病療養指導士)が在籍する医療機関は限られており、奈良県全域で糖尿病のある人を支える医療スタッフを育成することが急務でした。CDEなら認定委員会の立ち上げには、南奈良総合医療センターの管理栄養士 吉井雅恵さん(当時)と奈良県立医科大学 地域医療学講座の医

師 赤井靖宏さんが主体となって取り組まれ、お二人の強力なリーダーシップのもと、奈良県内の多施設・多職種の医療スタッフが運営に携わり、手作り、手探りで開始しました。初めて講習会を開催した際には、講義に使用するハンドブックもスタッフ自らが作成・印刷・製本し、直前まで準備に追われていたことは今では良い思い出です。設立当初は数人で構成された団体でしたが、少しずつ仲間を増やし、現在の7職種・19人の構成になっています。

CDEなら認定講習会を通じて、2017年以降年間約50

人の医療スタッフがCDEならを取得しています。当初は1日（7時間）の講習会として、午前中から午後にかけて知識修得を目的とした多職種による講義を行い、その後、血糖測定手技等の実習やスモールグループによる事例検討を行っていました（図2）。1日がかりの講習会は講師側だけでなく受講者も大変でしたが、待望の奈良県CDELの誕生とあって、奈良県内の様々な医療機関・職種の方が積極的に受講していただき、私達も毎回新鮮な刺激をいただきました。

図1 CDEならロゴマーク

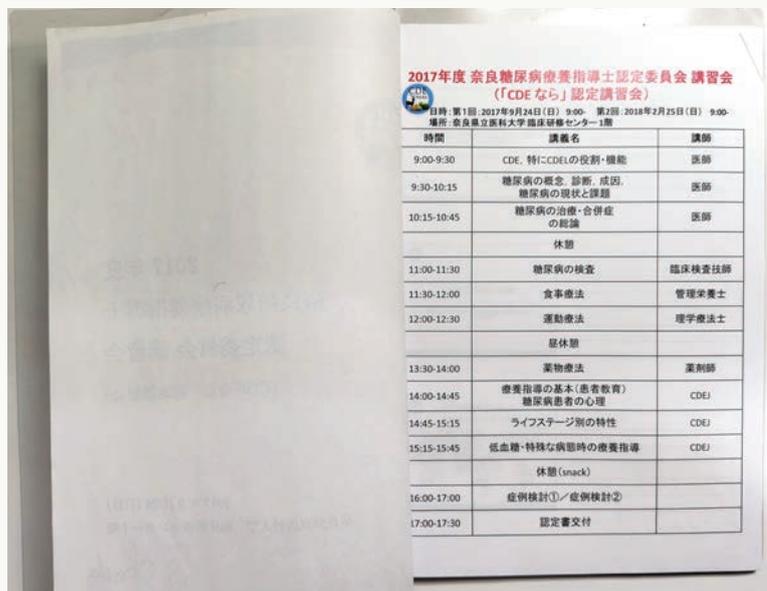


CDEなら創立時に作成したロゴマークです。認定者に贈られるCDEなら認定バッジにもこのロゴがあらわれています。

## コロナ禍のオンライン講習会

2020年以降の新型コロナウイルスのパンデミックの時期には、従来のような対面講習会の開催が困難な状況になりました。コロナ禍の中でも安定した学びの場を設定するために、奈良県立医科大学 臨床研修センターおよびイベント運営会社（株式会社イベント21）の協力を得て、オンライン（Zoom）でのCDEなら認定講習会に切り替えました。オンライン講習会では、従来半日以上かけて実施していた講義をYouTube動画としてオンライン上に整備し、各自で事前に学習してもらうように設定しました。また、各

図2 2017年9月第1回CDEなら認定講習会のハンドブック



冊子の作成・印刷・製本から全て手作りです。当時は講義がメインで構成されていました。

動画講義には確認問題を設け、オンライン講習会当日にはライブで確認問題の解説を行う反転授業形式とすることで当日の講義時間を短縮しました。事例検討にはZoomのブレイクアウトルーム機能を利用し、スモールグループで双方向性の討論を行う場を作りました。受講者からは、YouTube動画による講義視聴について「自宅や職場等で自分のペースで視聴できる」「繰り返し視聴できる」「確認問題を通じて理解が深まる」といった好意的な反響が多数寄せられました。また、オンライン講習会は自宅等でリラックスして講習会に参加できることや、感染症対策のために集合研修に参加できない施設のスタッフも参加できるというメリットがある反面、講師・受講者のコミュニケーションは取りにくく、CDEならの仲間を広げにくいという課題が浮かび上がりました。

### コロナ禍を経て、再び対面での講習会開催へ

2023年、CDEなら認定委員会の代表が赤井靖宏さんから筆者（岡田定規）に代替わりした際、CDEならの目標として「糖尿病診療スタッフに対する糖尿病診療のアップデート支援」に加えて、「地域で活躍するCDEならのネットワーク作り」を掲げました。特にCDEならのネットワーク作りにはCDEなら認定者とのコミュニケーションが必須です。そこで、2023年9月の認定講習会からはオンライン講習会の経験から得られた良い部分は残しつつ対面での講習

会を再開しました。具体的には講義の多くをYouTube動画による反転授業として残しつつ、スモールグループでの事例検討は対面で行う形式としました(図3)。それにより、従来は7時間の出席が必要であった講習会を4時間に短縮することができ、事例検討の時間もより長く確保できるようになりました。受講者からは対面でのコミュニケーションを歓迎する声とともに、「多職種での意見交換が有意義であった」「職種が変われば視点が変わることを実感した」といった職種を超えたコミュニケーションを喜ぶ声が多く聞かれました。引き続き、CDEならのネットワーク作りを目指し、コロナ禍を経てオンライン講習会の有益性を知った上で改めて対面での講習会にこだわっていきたいと考えています。これら一連の取り組みをまとめ、第11回JADEC年次学術集会でポスター発表をさせていただきました(図4)。

### CDEなら保健指導コースの立ち上げ

2023年に奈良県立医科大学 公衆衛生学講座から衝撃的な報告がありました。奈良県の国民健康保険データベースの解析によると、奈良県において特定健診で初めて糖尿病が疑われた人(HbA1c $\geq$ 6.5%)のおよそ3分の1の人が医療機関を受診していないというものです。さらに、HbA1c $\geq$ 10%の人においても、2割の人は医療機関を受診されていませんでした。そこでCDEならでは、医療機

関に受診されない人に対するアプローチを強化することを目的に、行政で保健指導に関わる医療専門職との連携を強化する方針にしました。行政・医療の相互コミュニケーションを推進するために、2024年9月から「CDEなら保健指導コース」として、行政に勤務されている保健師・管理栄養

図3 現在の認定講習会の風景



2025年1月に開催したCDEなら認定講習会のスモールグループでの事例検討の様子です。オンラインにはないコミュニケーションが生まれ、CDEならネットワーク作りに役立っています。

士とともに医療機関勤務のCDEならスタッフが共に事例検討会を行う研修会を開始しています。今後、CDEならのネットワークに医療機関スタッフだけでなく奈良県全域の行政スタッフが加わることを夢見て、企画を盛り上げていきたいと考えています。

す。まだまだ規模も小さく、他府県CDELの取り組みに遠く及ばない部分もたくさんありますが、その分たくさんの先行事例をみて学ぶことができています。CDEならはこぢんまりとした団体である分、メンバー同士の距離が近いことが強みです。今後も多職種で協働して、CDEならの目標である「糖尿病診療スタッフに対する糖尿病診療のアップデート支援」「地域で活躍するCDEならのネットワーク作り」に邁進していきたいと思ひます。

## 今後の展望・抱負

奈良県におけるCDELの活動は全国では後発組で

図4 第11回JADEC年次学術集会ポスター



「コロナを通して感じたこと、今後CDEならが目指す先」  
 ○村上康朗 吉田直子 岡田定規  
 奈良糖尿病療養指導士認定委員会

**2016年度に奈良糖尿病療養指導士認定委員会を設立**

2017年9月に第1回奈良糖尿病療養指導士(CDEなら)認定講習会を開催した。奈良県下のより多くのメディカルスタッフが糖尿病ケアに興味を持つきっかけになることに重きを置き、地域や職域で糖尿病療養支援ができる人を増やすことに注力してきた。

**コロナ禍を経て講習会形式の変化を経験**

コロナ禍において、認定・更新講習会のWeb開催を経験した。2023年度より対面での開催を再開しているが、動画配信 (YouTube) による事前学習形式のハイブリッド形式を採用している。これにより、受講時間の短縮を図ることができ、以前と同等の内容でスムーズな講習会運営が可能となった。講義を事前動画形式としたことは、参加者にとって (隙間時間の使用など) 学習機会の広がりや寄与することができたと考えられた。Webの利点、対面の利点それぞれを活用し、よりよい講習会の運営方法を模索しつづめることができたのではないかと感じた。

**コロナ以前からコロナ禍を経て現在に至る認定・更新講習会の開催形式**

2021年度以前



対面での講習会

2022年度



Webでの事前学習

2023年度以降



Webでの事前学習  
対面での事例検討

**スケジュールの変化**

2023年度 第1回	2023年度 第2回	2022年度 第1回	2022年度 第2回	2021年度 第1回	2021年度 第2回
2023年9月15日 (金)	2023年10月13日 (金)	2022年9月15日 (金)	2022年10月13日 (金)	2021年9月15日 (金)	2021年10月13日 (金)
13:00-15:00 開会式					
15:00-17:00 講義					
17:00-19:00 事例検討					
19:00-21:00 懇話会					

※平日かけていた対面講習をWebによる事前学習形式に変更 → 認定講習会・更新講習会運営のスリム化が可能

2024年7月に開催された第11回JADEC年次学術集会にて、コロナ禍の経験を通じてCDEならが目指す方向性を発表しました。

**それぞれの開催形式に対して参加者・主催者の声 (アンケートより一部抜粋)**

	参加者の声	主催者の声
対面 (主事例検討について)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場内で話し合うことで、とても有意義な時間となりました。</li> <li>・多職種で意見交換ができ、とても有意義でした。職種が変われば視点も変わり、刺激を受けることができました。</li> <li>・各人ご自身の気づきがあり、色んな意見が聞けてよかったです。</li> <li>・多職種の方と話し合えることがない中でとても貴重な時間になりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【メリット】</li> <li>・コミュニケーションの取りやすさ</li> <li>・異職種での共通課題や気づきを共有しやすく、CDEネットワークを形成する上での仲立ちが前向きであること。</li> <li>【デメリット】</li> <li>・参加者は様々であること。</li> <li>・高層階ビルや交通影響の影響を受けやすくなること。</li> </ul>
Web (主事前学習について)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の方や色んな意見が聞けて勉強になりました。</li> <li>・対面でのグループワークがなかった。対面でのグループワークがよかった。</li> <li>・参加者も多岐にわたるためWebで参加できるし仕事の調整ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【メリット】</li> <li>・参加者の参加が伸びた。</li> <li>・開催日に開催できない受講生も受け入れることができた。</li> <li>【デメリット】</li> <li>・Webでのコミュニケーションが難しいこと。</li> <li>・テキストや資料などの配布物のプログラムには、Webでは印刷を感じない。</li> <li>・参加者の意見が必要となり、質問が頻発する。</li> </ul>
Web (事前学習) + 対面 (事例検討)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の生活のタイミングで視聴できたので、とてもよかったです。</li> <li>・一日かけて受講より、集中して学ぶ方法だと思いました。</li> <li>・動画で視聴できるので、動画で復習もできました。</li> <li>・事前学習があったので、自分のペースで学習し、テストできたのが良かった。</li> <li>・1日だけの心労でなく、疑問も解消し、講義より理解は深まったと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【メリット】</li> <li>・Webの利点である (講義などの方向性の) プログラムをWebの不利点である (テキストなど) 資料のプログラムを対面で実施できたこと。</li> <li>・同じ内容でも聞かず、大きく興味時間を短縮できること。</li> </ul>

**今後CDEならが目指す先**

CDEならは様々な職種の方で取得していただいており、今後CDEなら取得後の多職種医療者コミュニケーションを目指している。

※今までCDEならを担ってきた職種  
 管理栄養士・栄養士・看護師・薬剤師(中村村・企業・健康づくりセンター)・薬剤師(病院・調剤薬局)・臨床検査技師・理学療法士・診療放射線技師・ドクターワーク  
 新たな取り組みとして、今年度より認定委員会メンバーに歯科医師が加入。  
 地域に根付いた資格となるために職域の保健事業への関わりや介護や在宅分野にて活用されることも期待される。更新講習会参加者との意見交換においても、後発指導における課題が挙がっている。そのため、今後行政職をメンバーに加えていくことを目指している。

第11回JADEC (日本糖尿病学会) 年次学術集会  
 利益相反の開示

演者名：村上康朗 吉田直子 岡田定規  
 私は今回の演題に関連して、  
 開示すべき利益相反はありません。